

## 国産材活用の裾野を広げ、山林を荒廃から守る『ヤマケン木のテント』

文=高橋 勝(山と木文化の研究会 ヤマケン木のテント担当・高橋勝建築設計事務所代表)

### 仮設休憩所の木質化を提案

平成28年10月に「第40回全国育樹祭」が京都府で開催され、記念式典は南丹市の公園「府民の森ひよし」で行われた。全国から約5000人の林業、木材関係者に加え、皇太子皇太子妃殿下も参列される非常に大規模なものである。

平成27年末頃、主催する京都府が式典会場の計画を作成中との情報を得た我々「山と木文化の研究会(当時、以下、ヤマケン)」は、京都府の育樹祭推進課に対し式典会場の仮設物のどれかを地域産木材による木質化を行う提案を行った。予想通りメインステージ以外の多くの仮設物は、運動会などで使われる鉄パイプとビニール製頒布による組立式テントで計画されていた。府をあげての木材・林業関連大イベントの会場にはそぐわない状況である事と、国産木材利用の啓発活動が重要であるとの共通認識で一致した府の育樹祭推進課は、幾つかの候補の中から多くの利用者が見込まれるメインの式典参列者用の休憩所(100～150人規模を求められた)の設計、設営、撤去までをヤマケンが行う事に同意したのである。最終的にこの休憩所は式典会場メインゲートの真正面に配置され、数千人の参列者に加え、式典後の後祭に参加した多くの南丹市民の目に触れ利用される事となった。

### 「ヤマケン木のテント」事業としての活動

こうして育樹祭式典会場の仮設休憩所を府内産木材を材料として設営する事業はスタートした。予算は元々京都府の推進課が休憩所に見込んでいた例の運動会式の組立てテント数張り分のレンタル費用に若干の経費を上乗せした程度であるため、事業はヤマケンメンバーとボランティアによるワークショップ形式のセルフビルドで行うことが必須要件となった。

計画の初期の段階で誰にでも組立てられるテント形式の休憩所とし、育樹祭式典後も繰り返し使っていける物とするという方針が決まっていたが、組立てや施工についてはメンバーのほとんどが素人であったため部材の接合方法や材料(主に屋

根葺材)、突風対策の決定までには数度の組立て実験、試験を行う必要があり、仕様が完全に決定し本格製作に取り掛かったのはイベントの3ヶ月前、平成28年7月からになった。

ワークショップ形式の木のテント製作は7月から10月までほぼ毎週土曜日もしくは日曜日、毎回10人程度が集まり行われ、時には材料調達のために山に入り杉皮を剥ぐような過酷なワークショップも行った。低予算ための選択であったが、山仕事の過酷さダイナミックさ、建材としての杉皮の生まれ方、加工の仕方、どの工程でコストが掛かるのか等、多くの知識を得る事が出来た非常に有益な体験となった。

また、この製作ワークショップにはヤマケンメンバー、オブザーバーに加え、京都府建築士会青年部会メンバー、京都美術工芸大学の先生、生徒(休憩所中央のモニュメントも製作頂いた)、京都府森林組合連合会の会長はじめ職員の方々、京都市内の建築士仲間、林業系サークルに参加する学生達、林業系活動家、育樹祭を所管する推進課の府職員まで非常に多くの方々に参加、応援を頂いた(後に、京都府木材6次産業化の採択事業として支援を受ける事が決定)。まさに参加者みんなで作り上げた組立式の木の休憩所が出来たと言える。

育樹祭後、ヤマケン木のテントは育樹祭で見た利用者から、多くの問合せや他イベントでの設置希望が寄せられ、H30年4月までに、様々なイベントや展示会で10回以上設営する事が出来た。

現在更に組立てやすい改良型が完成しており、今後も木のテントの普及方法を模索し、国産木材利用促進のきっかけとして、また仮設空間の修景にわずかでも寄与できればと考えている。



第40回全国育樹祭式典会場の様子



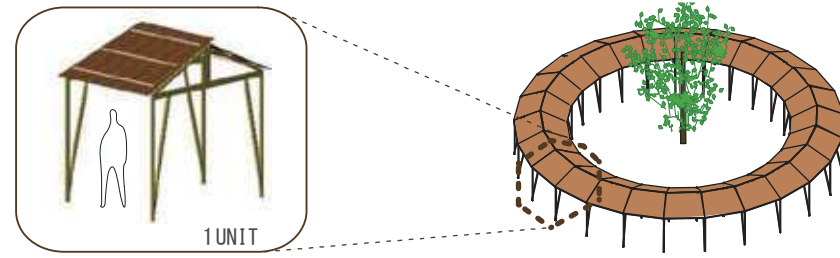
※全国育樹祭は、継続して森を守り育てることの大切さを普及啓発するため、1977(昭和52)年から全国植樹祭を開催したことのある都道府県において、国土緑化推進機構と開催県の共催で毎年秋季に行われている。全国植樹祭において天皇皇后両陛下がお手植えされた樹木についての皇族殿下によるお手入れ、皇族殿下によるお言葉や各種表彰、参加者の育樹活動等の行事が行われる。(公益社団法人国土緑化推進機構HPより)

## 【図解】木のテント

### 【テントの木質化】

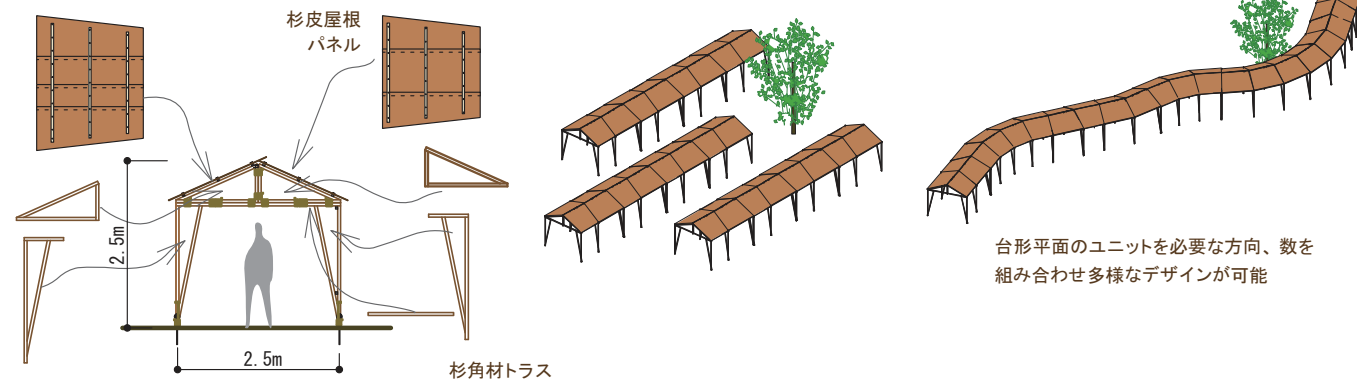


木質化



### 【門型フレーム図】

### 【多様な大きさ、かたち】



### 【セルフビルドで簡単につくる】

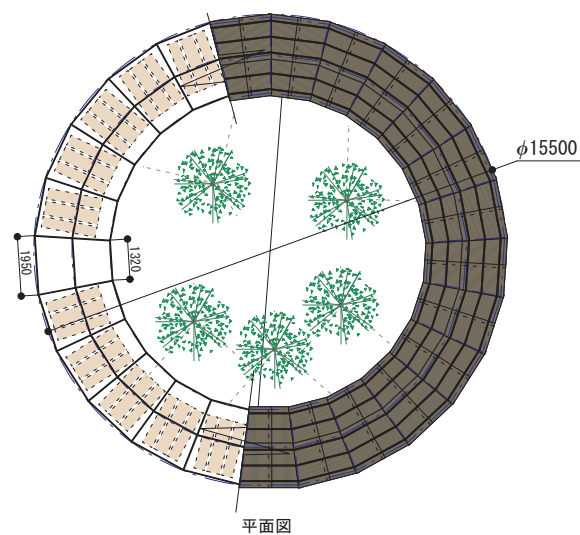


- 1 45mm 角の杉材を木ビスで固定
- 2 現場での組立ては2分の荒縄縛り  
祇園祭の山鉾と同じ男結び



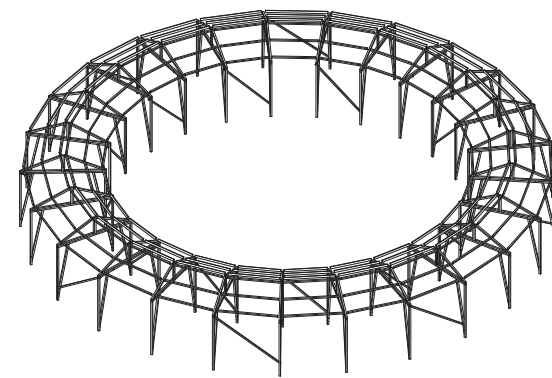
- 3 ローコスト化のため山で調達
- 4 一般的な材料、ローテクでつくれる  
簡単な組立てで何度も使える

### 【育樹祭用木のテントの図面】



平面図

- 面積 / 102 m<sup>2</sup>
- 長机 / 23
- 長椅子 / 46 (138人)



アクソメ図



「第40回全国育樹祭」終了後、京都府南丹市園部町大河内の山林に移設された。同地区は森林の除間伐を進め、自然と共生できる環境づくりに取り組んでおり、森の魅力を感じられるスペースづくりに役立っているという

### 「山と住文化の研究会」(ヤマケン)の発足

山と住文化の研究会(ヤマケン)は平成27年初夏頃から建築士会内の有志で始まった勉強グループ「モクモク会」が半年の準備期間を経て、翌平成28年1月にスタートした研究会である。

現在の会員構成は建築士6名、施工者1名、オブザーバーとして木材製材者、木材生産者(林業者)、森林関係の統計に詳しい学識の方などにも活動に参加している。

モクモク会時代から月一度程度あつまり、初期は建築・木材・林業関連のゲストを招いて木造建築を取り巻く木材調達の状況や国産材の流通の仕組み、その統計的な変遷、その結果の国内人工林の現在の状況と問題点等の勉強会を行っていた。ゲストの方々にはその後も助言や情報、ヤマケン事業での助入として多大な支援を頂いている。平成27年末頃より独自の事業を模索する様になり、ヤマケン木のテントは研究会になった頃に始まった事業のひとつである。

※山と住文化研究会はH30年4月から新名称「山と木文化研究会」に団体名を変更しました。

### 「ヤマケン木のテント」事業概要

#### ■目的

人の営みとしての山、ひいては町の住文化にまで繋がる「何か」を内包する国内人工林の保全のため、国産木材需要喚起、現在国内人工林で起こる問題の啓発を主目的とする。また、仮設施設が利用されるイベント等の修景も重要な目的である。

#### ■設計主旨

上記の目的から、主な材料を京都府産杉製材、杉皮、荒縄とした。さらに今後の普及のため、一般的で手に入れやすい材料(ホームセンターで手軽に買える口45角材、2分の荒縄など)で、容易に作れる、また組み立てる事が出来る方法を採用している。更にユニット単位で設置でき敷地に併せ様々な形状を選択出来る形式とした(左イメージ参照)。現場での荒縄接合方法は祇園祭の山や鉾の組立てでも使われている「男結び」を採用し、素朴な表現の中にも雅さの追求に加え町の文化の継承も意図している。

### 「ヤマケン木のテント」設置実績

#### ■平成28年

[10/9] 第40回全国育樹祭式典会場主休憩所(南丹市)  
[10/15] 男山秋祭りDIYイベント会場(青年部会地域実践担当事業/八幡市)

[12/10-11] 京都環境フェスティバル2016 出展(京都市)

#### ■平成29年

[2/10~3/26] もり森もくもりん林展出展(京エコロジーセンター/京都市)  
[3/25-26] 第3回梅小路フェス! Do you Kyoto? 休憩所(梅小路公園/京都市)

[6/2~] 大河内 森の休憩所(常設/南丹市)

[8/4~11] 京の七夕堀川会場 通り抜け通路、本部テント、短冊テント(京都市)

[9/8~10] ヤマケン木の広場会場(京都市)

[10/1] 木育子ども縁日 in 壬生寺(京都市)

[10/24~26] 京都府農林水産フェスティバル会場(京都市)

#### ■平成30年

[3/23~24] 高松橋南側広場オープニングイベント会場(京都市)



### ヤマケン 木のテント

設置場 京都府南丹市日吉町 府民の森ひよし  
事業者 第40回全国育樹祭京都府実行委員会事務局  
主要用途 仮設休憩所  
企画・設計・監理 高橋勝(高橋建築設計事務所)  
構造設計・制作 能戸謙介(山と木文化研究会・アトリエSUS4)  
企画・制作 杉江崇(山と木文化研究会・スギエタカシ建築研究所)  
制作 山と木文化研究会(中田哲、橋本華名、橋本政樹、前田清二、野瀬光弘、竹内明)  
設置期間 2016年10月8日~9日  
受賞 第20回木材活用コンクール 木材活用特別賞 / DSA 日本空間デザイン賞2017 日本空間デザイン協会特別賞 地域賞 / ウッドデザイン賞2017 / 第60回建築士会全国大会京都大会の地域活動報告セッション優秀賞